

四国の人々の生活を より豊かに幸せ多いものに していくために

一般社団法人 四国クリエイト協会
理事長 木村 昌司



昭和43年9月に「建設行政の推進と建設事業の進展に寄与する」を目的に社団法人 四国建設弘済会として設立された当会は、平成25年4月に「一般社団法人 四国クリエイト協会」として再出発しました。

これと同時に会の経営もこれまでの「発注者支援業務等」に替えて事業監理業務や民間との契約業務に移行するなど大きくその形態を変えてきました。

一方の四国地方の発展や地域貢献を支えてきた技術開発や防災活動、地域振興策の支援などのいわゆる公益事業についても、当会の持てる力である「人と技術力」を最大限活用し、引き続き地域の方々、団体から求められる形で対応してきております。

こうした業務を推進するに当たって、当会では「顧客、会員、取引企業、職員並びに地域住民等の様々なステークホルダー」の方々から見て好ましい存在として信頼され期待される組織であることが必須と考え、CSR行動憲章・指針を定め、これに基づき行動するとともにスキルの向上に取り組んでいます。

例を挙げれば、コンプライアンス、情報管理の徹底はもとより、国土保全、水環境問題、CO₂削減など循環型社会形成のための「協働の森づくり」事業に参加しています。また、平成23年の東日本大震災や平成30年の西日本豪雨災害時には被災地に災害調査団等を派遣するほか自ら災害を被った際の事業継続に向けたBCP計画を策定しています。



平成26年4月から本格運用を開始しました「四国災害アーカイブス」は創意工夫に富む意欲的な取り組みであるとして、平成27年8月に土木学会からグッド・プラクティス賞を、平成28年5月には地域貢献賞を受賞し、多くの皆様に利用されています。

平成27年からは「四国社会資本アーカイブス」に取り組み、河川・道路・鉄道・電力等、四国各地で行われてきた社会資本整備の情報を公開しています。この取り組みについても、土木学会から令和5年8月に、グッド・プラクティス賞を受賞しました。

四国地方防災エキスパート事務局としても活動しており、近年の激甚化する災害への対応や、今後30年以内で発生する確率が7割～8割と言われている南海トラフ巨大地震や激甚化・頻発化する豪雨災害等の大災害へ備えるため実務研修等の活動を行っています。

平成30年の西日本豪雨をはじめ、災害時には防災エキスパートによる後方支援なども行ってきました。

令和5年度より四国内の14自治体より水防協力団体の指定を受け地域の水防活動の支援・サポートにも取り組んでいます。

また、技術開発、国土・環境保全、地域創生などを進めるための公益事業活動に取り組み、未来の元気で豊かな四国づくりと地域活性化の実現に寄与するため、各種事業を実施しています。



当会は、四国の人々の生活をより豊かにしていくために、地域社会から信頼と期待を求められる組織であることを目指し、今後も向上心を持って設立時と何ら変わることない技術集団として地域貢献して参ります。



最後に、本レポートは当会のCSR活動を、関係する皆様にご覧いただき、ご理解をいただくことを目的に作成しております。

是非ご一読いただき、忌憚のないご意見・ご感想を賜りますようお願い申し上げます。